教師としての資質の確認
―「教職実践演習」科目の現地調査を中心に―

松本　幸子

平成25年度より、４年次後期に教職科目の「教職実践演習」が設置された。主に現地調査（フィールドワーク）として学生が学校現場等に出向き、実地で調査活動や情報の収集を行うことが内容に含まれている。教育実習後に改めて、現場の高等学校を見学することにより教員としての使命感・責任感と教員としての資質の最終確認を行う事が目的である。東京家政学院大学現代生活学部生活デザイン学科で開講された当該科目について、各自がどの程度理解し実際に行動できるようになったか、アンケート調査を行った結果、全体的に高い達成度があると評価された。しかし、その中で授業に関する項目でマイナス方向の値がみられたことは、問題点と言える。少ないデータ量であるがこれからの授業内容や見学内容をより良いものにしていく一つの資料として、これからも継続して調査を続けていきたいと考える。

キーワード：教師　現地調査　使命感　資質　教職

１．はじめに
１－１　「教職実践演習」科目の概略

教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令（平成20年文部科学省令第34号）により、2010（平成22）年度以降の大学入学者の教職課程の「教職に関する科目」として、「教職実践演習」が新設された。その概略は、以下の通りである。 教職実践演習（仮称）は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、課程認定大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。学生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。

次に、このような科目の趣旨を踏まえ、本科目には、教員として求められる以下の4つの事項を含めることが適当である。

①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
②社会性や対人関係能力に関する事項
③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項
④教科・保育内容等の指導力に関する事項

また、本科目の企画、立案、実施に当たっては、常に学校現場や教育委員会との緊密な連携・協力に留意することが必要であるとされている。

次に授業の方法としては、

１．内容の授業を効果的に展開するためには、授業方法の面でも、課程認定大学が有する知見を結集して、理論と実践の有機的な統合が図られるような新たな授業方法を積極的に開発・工夫することが重要である。具体的には、授業内容に応じて、例えば教室での役割演技（ロールプレーイング）やグループ討論、実技

東京家政学院大学現代生活学部生活デザイン学科

指導の他、学校や教育委員会等との協力により、実務実習や事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬授業等を取り入れることなどが考えられる。

2.「役割演技（ロールプレーイング）」ある特定の教育テーマ（例えば、いじめ、不登校等）に関する場面設定を行い、各学生に様々な役割（例えば、生徒役、教員役、保護者役等）を割り当てて、指導教員による実技指導も入れながら、演技を行わせる。

3.「事例研究」ある特定の教育テーマに関する実践事例について、学生同士でのグループ討議や意見交換、研究発表などを行わせる。

4.「現地調査（フィールドワーク）」ある特定の教育テーマに関する実践事例について、学生が学校現場等に出向き、実地で調査活動や情報の収集を行う。

5．学生に自己の課題を自覚させ、主体的にその解決に取り組むことを促すため、本科目の履修に当たっては、役割演技（ロールプレーイング）や事例研究、指導案の作成等の成果を省察する観点から、単に映像記録等を残したり、感想文を書かせるだけではなく、例えば学生に実践記録を作成させる等の工夫が求められる。

6．受講者数は、演習科目として適正な規模（授業内容、方法等にもよるが、おおむね20名程度）とし、演習の効果が最大限に発揮されるよう配慮することが望ましい。受講者数が増える場合には、大学の実情に応じて、ティーチングアシスタント（TA）等を活用するなど、授業形態の工夫を図る必要がある[1)]。

今回は、上記の内容の中の4.「現地調査（フィールドワーク）」として、学生が学校現場に出向き実地で調査活動や情報の収集を行うために行った高校見学終了後に教員としての使命感・責任感の確認ができ、教員としての資質の最終確認ができたかを、各自の自己評価を中心にアンケート調査を行った。

2．方法

2－1　現地見学について

現地調査（フィールドワーク）として、高等学校に出向き、授業見学・施設見学および教員の講話を聴く内容のプログラムを行った。参加人数は11名で、神奈川県の総合高等学校に見学に行った。

実際に行った見学内容について

日程

日時：10月22日（火）11：30～16：30

集合時間11：30分　場所　正門入り口

内容：

11:35～11:45　校長先生にご挨拶と高等学校の生徒の特徴と高校の現在のレベル等についてお話を伺う

11:45～12:00　見学する講義授業・実習授業施設を見学

12:00～12:45　「生活と資源・環境」の講義授業見学

12:45～13:05　移動と休憩

13:05～13:35　「フードデザイン」の調理実習授業の見学

13:35～14:00　昼食

14:00～14:25　「児童文化（リトミックの演習）」の見学と参加

14:25～15:00　「被服製作Ⅱ」の実習授業の見学

15:00～16:30　先生お二人の講話と懇談

16:40　解散（16:51分のバスに乗車）

2－2　見学授業内容と先生方の講話内容

「生活と資源・環境」の講義授業内容

プレゼンテーションソフトウェアによる資料提示とプリントを併用しての講義で、プリントに講義の内容を記入させつつ、プレゼンテーションソフトウェアの掲示資料の中や講義の中から答えを見つけさせる形式で構成された授業であった。講義内容や教師の説明も聞き逃さず、メモをとれるように促し、勉強する姿勢を身につけるという観点からの指導を行っていた。また生徒に声をかけながら、興味を持たせるように、実生活で自分が行っていることや感じていることを交えながらより身近に感じられるように、毎日の生活と結びつけながら講義を進めていた。

「フードデザイン」の調理実習授業の内容

15人程度の少ない履修者で、一グループ２名から３名の少人数のグループで実施されていた。当

日は、４人前の鮭のムニエルに添え物としてマッシュポテトとブロッコリーのバター炒めとトマトとコーンポタージュであった。コーンポタージュは一部応用した工程を加え、再確認ができる調理でロールパンは既製品の実習内容であった。

実習補助がついていないため、学生を補助として参加させながらデモを行っていた。また、時間内に完成させるためにお昼休みに集合させて、早めに授業を始めていた。

「児童文化」の演習型授業内容

右脳の発達を助ける働きもあると言われている、「リトミック」という手法を用いた授業で、体を使ってバランス感覚を体感的に身につけていくための情緒教育の効果もある。身体能力を活かして刺激をし、あらゆる表現方法が出来るように、リトミックを行っている演習授業であった。

生徒の動きやリズムなどを見学した後、オルガンを引きながら掛け声をかける教師のタイミングに合わせて、様々な決まりの中で判断し、リズミカルに行動する体験型授業に参加した。

「被服製作Ⅱ」の製作実習授業の内容

この授業は被服製作に関係するカリキュラムの中で最後にあたる授業で、各自自由に作りたいものを製作していた。ウェディングドレス、イブニングドレス、一枚仕立てのジャケットを製作していた。

各自が異なる作品を製作しているため、個人指導になることが多く、様々な専門的な知識が必要となる授業であった。使用されているパターンは市販のものを利用し、縫製を中心に進められていた。

以上の授業内容と、二名の教師の方々からの講話として、高校の特徴や、教師としての経験、教材の作り方、生徒とのかかわりなど細かな点や、教育実習で疑問に思っていたことなどを質問し、いろいろな情報を得る体験を行った。

２－３　アンケート調査

文部科学省が意図する到達目標を参考に資料１の内容でアンケートを行い、次のＡからＤの４項目を５段階尺度で評価を行った。

Ａ項目：教員としての使命感や責任感、教育的愛情等に関する項目について

①教育に対する使命感や情熱を持ち、常に生徒から学び、共に成長しようとする姿勢が身についたと思いますか。

②高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たす事ができると思いますか。

③生徒の成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができますか。

Ｂ項目：社会性や対人関係能力に関する項目について

①教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができますか。

②組織の一員としても自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができますか。

③保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができましたか。

Ｃ項目：生徒理解や学級運営等に関する項目について

①生徒に対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができましたか。

②生徒の発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができますか。

③生徒との間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができますか。

Ｄ項目：教科・保育内容等の指導力に関する項目について

①教科書の内容を理解しているなど、学習指導の基本的事項を身につけられましたか。

②板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力を身につけることができましたか。

③生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができますか。

以上の項目を各自が正しく理解し、身についたかを５段階評価で中間の「どちらとも言えない」を挟んで、左右に「やや身につき理解でき、行動ができる」・「あまり身につかず理解または行動ができない」「非常に身につき理解でき行動ができる」・「ほとんど身につかず理解・行動ができない」の評価アンケートを行った。

３．結果および考察

３－１　アンケート調査の結果

項目Ａの教員としての使命感や責任感、教育的愛情等に関する項目についての、最初の教育に対する使命感や情熱を持ち、常に生徒から学び、共に成長しようとする姿勢が身に着いたかについては、「やや身についた」が36.4％、「非常に身につき理解できた」が、63.6％と高い値を見せて、自分で高く成長したと評価している。次に、高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たす事ができるかについては、「非常に身についた」が、45.5％で「やや身についた」が54.5％でほぼ理解し身についたことを表している。最後の生徒の成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができたかについては、「非常に理解し行動ができる」が63.6％で「やや理解し行動ができる」の、36.4％を加えるとほぼ適切な行動が身につき理解できたことを示している（表１、図１）。

項目Ｂの社会性や対人関係能力に関する項目についての教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができるかは、45.5％が「非常に理解し身についた」と感じ、「やや」の54.5％を加えると100％となり、長期間の実習期間で教師としての義務や自覚に目覚めて、目的に応じた行動が取れるようになったことが結果として表れている。次の内容の組織の一員としても自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができるかも、ほぼ同じ割合で「非常に」と、「やや」を合わせると同じ結果で、生徒の理解をする努力が見え、適切な言動と行動ができる結果である。次の保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができますか、については、実習中には、保護者の方々や地域の関係者との交流の時間はあまり現実的に行われる事が、少なく、経験できないことから、「どちらとも言えない」という答えが9.1％出てきている（表１、図２）。

項目Ｃの生徒理解や学級運営等に関する項目については、学級指導と言う大変難しく経験がない学生がどのように感じたか、興味深い項目である。最初の問いは、生徒に対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができますかと言うものであるが、予想に反して90.9％の人が「非常に身につき理解できた」と評価している。そのほかも9.1％が「やや身につき理解でき行動できる」とあることから、この問いは、学生にとって身近で行動できる理解できる範囲である事が分かる。次に生徒の発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができるかについては、「非常に」が、45.5％「やや」が、54.4％と高い値を示している。次の生徒との間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができますかについても、「非常に」が、54.5％「やや」が、45.5％と同じく高い値で、生徒理解やその学級運営に対しての能力は理解し身についた結果となっている（表１、図３）。

項目Ｄの教科・保育内容等の指導力に関する項目については、一番学生が時間的にも力を入れて、準備を行い授業に挑んだ内容と予想できる。その結果は、まず教科書の内容を理解しているなど、学習指導の基本的事項を身につけられましたかについては、「非常に」が、27.3％と低く、「やや」は、36.4％で「どちらとも言えない」が27.3％という結果になっており、実際に授業を行う難しさを感じている。次の板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力を身につけることができましたかと言う、さらに具体的な行動などについての内容については、「非常に」が、27.3％「やや」が、54.4％と少し評価が良くなってきているが、「あまり身につかず理解、行動ができない」という答えが、9.1％みられる結果である。最後に生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができますかについてみてみると、「非常に」が、45.5％「やや」が、54.5％とプラス方向に結果がでており、項目Ｃの生徒理解などによる学級運営で高い値を出していたことと合せて考えると、生徒の反応や状況に応じて対処できる能力は身についているという結果であった（表１、図４）。

表１　アンケート結果

単位：%

項目	項目A			項目B			項目C			項目D		
質問	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
非常に身につき理解でき行動ができる	63.6	45.5	63.6	45.5	54.5	45.5	90.9	45.5	54.5	27.3	27.3	45.5
やや身につき理解でき行動ができる	36.4	54.5	36.4	54.5	45.5	45.5	9.1	54.5	45.5	45.5	63.6	54.5
どちらとも言えない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	27.3	0.0	0.0
あまり身につかず理解・行動ができない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0

３－２　考察

項目Ａの教師としての使命感や責任感については各自の成長を高く評価している。さらにやや身につき理解できた割合も多く、あらゆる事態に対して、対処する意志があり自分の職務を果たす事に努力し、行動できることが表れており、次の生徒の安全・成長などを第一に考え適した行動が取れる内容も64％の評価をしている。Ａ項目については、高い割合で理解し身についていると考えていい結果であった。

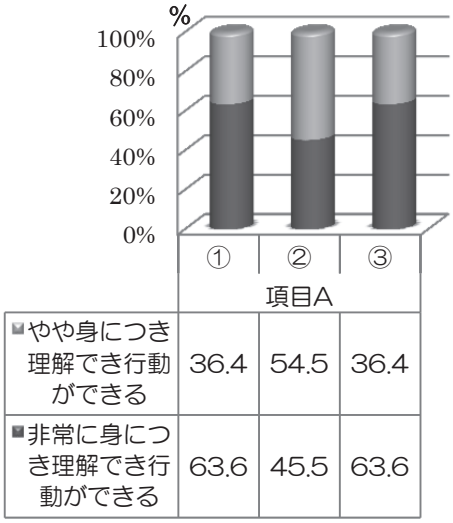


図１　項目Aの評価結果

項目Ｂの結果は、社会性や対人関係能力に関する項目についての教員として目的や状況に応じた適切な言動をとれるかと、自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができるかの二つの内容には、ほぼ同じ割合50％前後でやや理解し、行動もできる、を加えると100％に近い割合になっており、教師としての職務や義務の自覚を持って、適切な対応と言動ができ、組織の一員である自覚を持ち、他の教師とも力を合わせて、仕事に対処できることが表れている。３つ目の内容については、教育実習中は授業に関することや学級内での事を中心に実習しているため、保護者の方々と接点ができる機会がほとんどないことが考えられることから、保護者との良好な関係を築くまでの時間的な範囲で体験できなかったことが、考えられ、「どちらとも言えない」が9.1％でている。この結果は、教育関係は一年間がワンクールで行われていることから、そのような機会に実習中に恵まれることが、なかなか難しい内容である

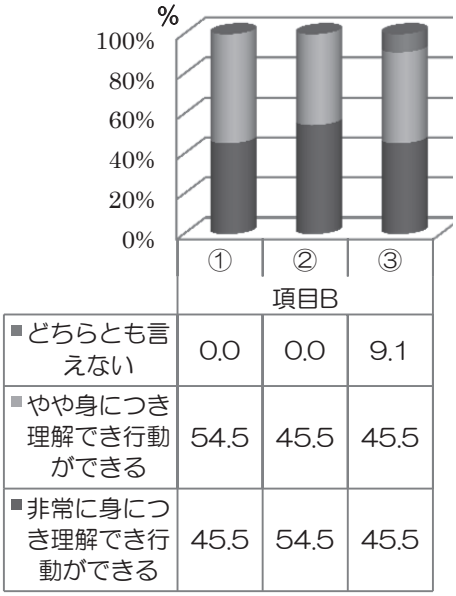
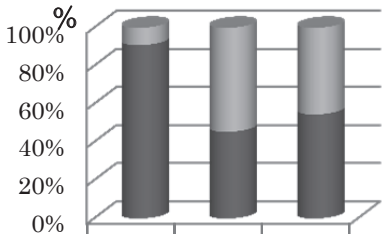


図２　項目Bの評価結果

と推測できる。

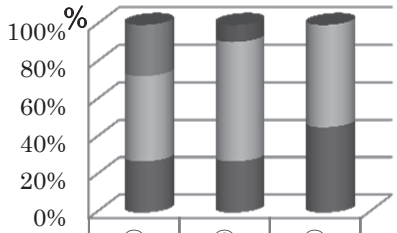
項目Ｃの生徒理解や学級運営等に関する項目については、生徒に対して偏見や先入観を持つことなく受け入れて、適切な態度で接する内容では、こちらが想定した結果と反して、高い理解と身に付いた結果となっている。普段あまり中高生と接する経験が少なく､難しい内容だと考えていたが、やはり年齢がまだ近いせいか、自分の経験から自然体で適切な態度で接することができている。この90.9％の結果は適性がある学生が集まったと考えることもできる。次に生徒の発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができるかについては､「非常に」より「やや」の割合が9.2％高い数値であるが、ほぼ理解し行動できると解釈できる。次の生徒との間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができますかについても、「非常に」と「やや」を合わせると100％で、理解できるがこちらは「非常に」が9.2％上回った結果で、生徒理解やその学級運営に対しての内容については理解し、身につけられて実行できる状態まで成長していると考えられる。



項目C	①	②	③
■やや身につき理解でき行動ができる	9.1	54.5	45.5
■非常に身につき理解でき行動ができる	90.9	45.5	54.5

図３　項目Cの評価結果

項目Ｄの教科・保育内容等の指導力に関する項目について、学生が一番勉強し時間を使い努力した項目と言える。授業について教科書だけにとどまらず、情報を集めて、自分のものにし、自分の言葉で授業をしたその結果は、まず教科書の内容を理解しているなど、学習指導の基本的事項を身に付けられましたかについては、「非常に」が、27.3％と低く「やや」は、36.4％で「どちらとも言えない」が27.3％という結果になっており、実際の授業については、大学での模擬授業を何回となく経験しているが、実際の中高生に理解させ、実行させる難しさが表れており、繰り返し行っている模擬授業であるが、この項目は検討することが必要である結果となっている。次の板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力を身につけることができたかについては、「非常に」が、27.3％「やや」が、54.4％と少し良くなってきているが、「あまり身につかず理解できず、行動ができない」という答えが、9.1％みられる結果となり、一人でもマイナス方向への学生がいることは改善していかなければいけない内容であると考える。教育実習にいく学生には、一番力を発揮して欲しい内容で、自信を持って行えるものにしなければならないと考える。最後に生徒の反応



項目D	①	②	③
■あまり身につかず理解・行動ができない	0.0	9.1	0.0
■どちらとも言えない	27.3	0.0	0.0
■やや身につき理解でき行動ができる	45.5	63.6	54.5
■非常に身につき理解でき行動ができる	27.3	27.3	45.5

図４　項目Dの評価結果

や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができますかについてみてみると、「非常に」が、45.5%「やや」が、54.5%とプラス方向に結果がでており、C項目の生徒理解などによる学級運営で高い数値を出していたことと合せて考えると、生徒の反応や状況に応じて対処できる能力は身について行動ができる結果となった。

これらの結果より、一番改善しなければならない事は、項目Dの①教科書の内容を理解しているなど、学習指導の基本的事項を身に付けられましたか、という内容について、教科内容について教科書内容だけで全てを説明理解させるのではなく、普段の生活の中からあらゆる情報収集を行い、授業内容に活かせる応用力を身につくような、カリキュラム内容を考えなければならない結果であった。他の項目については、時間的に関わりをあまりもてない、B項目にある保護者や地域の方々との関係については、環境的に機会が取れないため、実際の現場で経験を積んで、身につけていく項目と考える。他の項目については、ほぼ良い評価を示しており、教職資格に関わる内容の総まとめとして、教員としての使命感・責任感が確認でき、目的の教員としての資質の最終確認ができたと考えられる結果となった。

4．おわりに

今回は新科目が設置された初回年度のため、履修者数に限りがあり、詳細な検討を行うには不十分なデータ数であった。

しかしながら、2年次から行われている教職の授業での模擬授業の内容について、再検討の必要性が示唆された。

現地調査（フィールドワーク）終了後に学生が、どの程度教師としての資質の確認ができたか。また、教科の内容・生徒への接し方・配慮など教師としての役割を把握できたか、調査を続けたい。

そして、学生一人一人が自信を持って一人でも多く教職の現場に立ち、教壇で活躍できるように充実した授業内容の資料の一つとなるように継続して、調査をこれからも続けていきたいと考えている。

謝辞

今回の現地調査（フィールドワーク）実施にご協力・ご支援いただいた、東京都立町田総合高等学校の高橋一信校長はじめ、宮崎聡子教諭、並川朋美教諭に心より感謝致します。

引用・参考文献

（1）　文部科学省ホームページ 教職実践演習について１科目の趣旨・ねらい２.授業内容例３.到達目標及び目標到達の確認指標例：http://www.mext.go.jp /b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910/014.htm（2013.5.22）

（2）　日本繊維機械学会：『被服心理学演習ノート』日本繊維機械学会 被服心理学研究分科会編（1994.3.30）

（3）　西岡加名恵、石井英真、川地亜弥子、北原琢也：『教職実践演習ワークブック』㈱ミネルヴァ書房（2013.6.10）

（4）　梨木昭平：『教職実践演習』㈱大学教育出版（2013.6.10）

（5）　東京家政学院大学事務局：『東京家政学院大学学生便覧平成25年度』（2013.4.1）

（受付　2014.2.27　受理　2014.6.11）

資料1：使用したアンケート

該当する方に〇又は記入してください。

①教育実習はどちらで行いましたか。　　a.中学校　　b.高等学校

②どちらの県で行いましたか。　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

②担当した科目をあげて下さい。　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
（複数記入可）

教育実習・見学を終えてそれ以前と比べてお答え下さい。

Ａ教員としての使命感や責任感、教育的等に関する項目について

①教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いたと思いますか。

②高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たす事ができると思いましたか。

③子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができますか。

Ｂ社会性や対人関係能力に関する項目について

①教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができますか。

②組織の一員としても自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができますか。

③保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができますか。

Ｃ生徒理解や学級運営等に関する項目について

①子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができますか。

②子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができますか。

③子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができますか。

Ｄ教科・保育内容等の指導力に関する項目について

①教科書の内容を理解しているなど、学習指導の基本的事項を身に付けられましたか。

②板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力を身につけることができましたか。

③子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができますか。

		非常に身につき理解で行動ができる	やや身につき理解できる行動ができる	どちらとも言えない	あまり身に付かず理解または行動ができない	ほとんど身に付かず理解・行動ができない
A	①					
	②					
	③					
B	①					
	②					
	③					
C	①					
	②					
	③					
D	①					
	②					
	③					